

3月・4月の管理ポイント

気温が上がり、芝が動き出すといよいよシーズン到来です。冬季の芝生には低温や乾燥によるストレスが掛かっており、気づかないうちにダメージが蓄積しています。蓄積したダメージを放置せず、夏越しに向けてコンディションを整えていきましょう。



高親水性土壌用界面活性剤

バイタルドロップ

高親水性のバイタルドロップは、散布時に葉の表面や表層の撥水性土壌に付着する量が少なく、深い層まで素早く届いて処理層を形成します。散布液が高濃度になる少量散布でも高い効果が得られます。ドライスポットの予防と治療、どちらの目的でも使用できる利便性の高い土壌用界面活性剤です。

土壌水分を低めに保ちたい場合はレボ、スポット処理には手撒きしやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。

ドライスポットの予防 使用量：1ml/m²/月 散布水量100ml/m²以上
ドライスポットの治療 使用量2ml/m² 散布水量100ml/m²以上



サッチの除去
土壌環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。土壌の透水性を改善しましょう。

土壌微生物が活発な時期になるので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。

使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.5l/m²



病害予防に

グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、更新作業時の保護殺菌にお勧めです。

使用量：ベントグラス_希釈倍率300-500倍 1-2l散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2l散布/m²



光合成だけでは足りない
養分の補給に

グリーンメカ

生育期を迎え芝生の活動が活発になると、大量のエネルギーが必要になります。しかし気温が低いと光合成スピードが遅く、必要量のエネルギーを作り出すことが出来ません。

貯蔵養分を使い込む前に、糖・アミノ酸・ミネラルたっぷりのグリーンメカで足りないエネルギーを補給しましょう。

使用量：2~10ml/m² 散布水量：1l/m²



池の水をきれいなブルーに

ワラーブルーL

池がきれいなブルーになりコースの景観が良くなります。ワラーブルーLに含まれる2種類の色素で、水生植物（アオコなど）の光合成に必要な光(430nm、630nm)を遮り、増殖を抑えます。増殖が始まる前からの使用が効果的です。安全性の高い食用色素を使用しているため、着色した池の水を芝生への散水や薬剤散布にも利用できます。

使用量：500ml/水500トン



池の水質改善に

セラクリーン

セラクリーンは、池に散布することで水中の悪臭原因物質を吸着し拡散を防ぎます。またカルシウム等のミネラル分をゆっくりと放出して水質の悪化(酸性化)を防ぐことで、池の水質浄化に優れた効果を発揮します。即効性の粉タイプと遅効性の顆粒タイプがあります。気温が低く微生物やアオコなどの活性が低い時期から、池の水質改善を行きましょう。池の掃除後の使用も効果的です。

使用量：5~10袋(100~200kg)/1,000m² 5~10袋(100~200kg)/水1,000トン

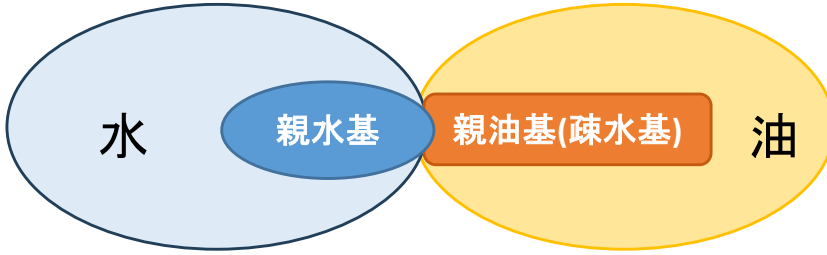
土壌用界面活性剤のタイプ

ドライスポットの予防、治療には浸透剤(土壌用界面活性剤)が使われます。
 今回は浸透剤の主成分である界面活性剤について紹介します。

界面活性剤とは

界面活性剤について簡単に説明すると、「水と油をつなぐ役割を果たす」成分の総称です。
 ひとつの分子の中に水と引き合う親水基、油と引き合う親油基(疎水基)の両方を持ち、
 本来混ざり合わない水と油を混合することが出来ます。

↓界面活性剤を添加することで
 通常では分離する水と油が混ざりようになる



水に溶けにくい有効成分を効率よく使うため、農薬の製剤など多くの場面で界面活性剤が使われています。

界面活性剤のタイプ

界面活性剤には親水基と親油基の繋がる順により、様々なタイプがあります。
 浸透剤の性能は、この界面活性剤のタイプにより変わります。

	マッチ棒タイプ	ブロックコポリマータイプ	末端メチル基 ブロックコポリマータイプ
分子構造	<p>親水基 水と引き合う 親油基 撥水性の土壌粒子と引き合う</p>	<p>親水基 親油基 親水基</p> <p>親油基 親水基 親油基</p>	<p>親水基 親油基 親水基 親油基</p>
撥水性土壌への付着	<p>土壌粒子の表面 親水基と引き合う水</p> <p>最も単純な構造の界面活性剤 親水基が小さく水を捕まえる力は弱い 浸透性は高く、肥料や農薬との タンクミックスに向いている</p>	<p>土壌粒子の表面 土壌粒子の表面</p> <p>浸透剤としてよく使用されるタイプ 親水基が長く水を捕まえる力が強い 残効にも優れ、乾燥しやすいグリーンの 定期散布に向いている</p>	<p>土壌粒子の表面 重力水</p> <p>ブロックコポリマータイプの発展型 親水基の先に小さな親油基を持つことで 薄い水の膜を形成する 余分な水を排水しやすく、 過湿になりやすいグリーン向き</p>

界面活性剤と言っても上記のように様々なタイプがあり、2種類以上の界面活性剤を組み合わせた製品もあります。
 グリーンの特徴や求める効果によって、適切な製品を選ぶことが重要です。
 次回は界面活性剤の性質について、より詳しく紹介します。